

# 「生と死のミニャ・コンガ（7556 麓、中国四川省）～39 年間の物語～」

阿部 幹雄

写真家・ビデオジャーナリスト、北海道大学山とスキーの会、  
雪崩事故防止研究会代表、日本雪氷学会雪氷災害調査チーム前代表

【講演要旨】 1980 年、ミニャ・コンガ（7556 麓、四川省）東山麓、私は 50 年ぶりに訪れる外国人だった。その日、村に初めて車が走り、大群衆に囲まれた。1981 年 5 月、北海道山岳連盟隊の 8 名が頂上直下で滑落。私は生き残る。初めて遺体捜索を行ったのは 1995 年。2009 年までに 4 度の遺体捜索收容を実施し、慰霊のために 6 度遺族を案内して訪れた。毛沢東を“神”と崇める山岳狩猟民族イ族。彼らは火縄銃を携え、狩猟と薬草採取のために山を登る。近代化が進み、電化製品と携帯電話が普及。四つ星ホテルが林立し、ロープウェイが建設されて進んだ観光開発。そして地球温暖化による氷河の縮小。39 年間にわたって私が見てきたイ族、チベット族、漢民族がせめぎ合う山麓の物語です。

.....

以下、雲南懇話会として参考資料を編集しました。（編集責任：前田栄三）

左の写真（ミニャコンガ）：大阪市立大学山岳会 HP から転載。

右の写真（ミニャコンガ）：ウィキペディアから転載。



## 1. ミニャコンカ 【出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より抜粋】

ミニャコンカは中華人民共和国四川省カンゼ・チベット族自治州に位置する大雪山脈の最高峰。由来は、ミニャ国の白い山という意味。中国語表記は貢嘎山（日本では代用漢字で貢嘎山と表記することが多い）。標高 7,556 メートル。

冬虫夏草をはじめとした貴重な薬草の採集地として知られ、麓の倒栽沖には唐代に皇帝から「薬王」の名を授けられたという孫恩妙を祀る廟がある。ヒマラヤ山脈の各峰の標高が正確に測定される前は、標高 9,220 メートルとされ、世界最高峰に位置づけられたこともあり、古くから登山の対象となっている。しかし、急峻な上にピークが不明瞭で、遭難者から「頂上に騙された」と評されるほどの地形不明確な山頂、目まぐるしく変化する天候のために登頂に成功した者は 20 名に満たず、世界でも屈指の難峰となっている。

1981 年には北海道山岳連盟登山隊 8 名の滑落死事件があり、2011 年現在、日本人海外遠征隊での最大の犠牲者数である（行方不明者を含めた場合 1991 年に雲南省の梅里雪山で 11 人の日本人が犠牲になっている）。1982 年には日本の登山隊 2 名が遭難し、その中の 1 人である松田宏也が 19 日後に奇跡的に生還した。1990 年代以降、山麓に位置する海螺溝氷河の周辺は自然保護区に指定され、観光地開発が進められている。

## 1) 初登頂 【編集】

初登頂は当時としては異例とも言える少人数の隊によって達成された。当初、エベレストより高い可能性があると思われていたアムネ・マチン峰の遠征隊として12人の参加が予定されていたが、満州事変の勃発により登頂許可が得られなかったため遠征が頓挫。一部は無許可のままアムネ・マチン峰へ向かったが、リチャード・L・バードソル、テリス・ムーア、アーサー・エモンズ3世、ジャック・セオドール・ヤングの4人はミニヤコンカの測量および登路偵察、大型獣の標本採集を目的とした西康遠征隊を結成した。満州事変の混乱に加えて中華民国軍はチベット軍との戦闘も行っていたため、最寄の都市である打箭爐周辺でも人足や駄獣の大規模な徴発が行われており、資材の運搬要員の確保にも困難を極めた。結果として最終的にベースキャンプより上でも活動したハイポーターはわずか2人、ヤング隊員は第1キャンプへの荷揚げを完了すると撤収の際に必要なポーターの手配と折衝をするために下山したため、終盤の登山活動は3人で行われた。エモンズが手を負傷したため最終アタックはバードソルとムーアの2人で行われ、6,700メートル地点に設営された第4キャンプから9時間半かけて登頂に成功した。なお、登頂前に4人はより綿密な測量活動を行い、ミニヤコンカの標高は7,587メートル(24,891フィート)、測定誤差±25メートル(85フィート)と現在の計測値に非常に近い数値を算出している。この標高の登頂は1931年に登頂されたインドのカメット峰(7,756メートル)に次ぐ世界第二位の記録だった。

## 2) 登山史 【編集】

1879年 - ベラ・ステュチェニー伯爵の遠征隊による最初の測量が行われ、7,600メートル(24,936フィート)と測定された。当時の名称は「ポー・クンカ」とされている。

1929年 - ジョセフ・ロックによる探査行が行われ、標高7,803メートル(25,600フィート)と算出された。

1930年 - 広東の中山大学遠征隊による測量が行われ、7,700メートル(25,262フィート)と算出。

これとは別にジャイアントパンダの調査のためにこの地域を探査したルーズベルト兄弟は、疑問符付きながら9,144メートル(30,000フィート)と報告した。

1932年10月28日 - アメリカ隊のリチャード・バードソル、テリス・ムーアの二名が初登頂。バードソルは指に重度の凍傷、最終キャンプを守っていたエモンズも足の指を全て切断する重度の凍傷を負う。

1957年 - 中国隊が登頂、山頂に「缶」を埋めたとされるが、下山中に3人が転落死。

1980年 - 山域周辺への外国人立入禁止措置が解除、以降、各国の登山家が登頂を目指す。

1981年5月24日 - 北海道山岳連盟登山隊8名が滑落死。

1982年5月 - スイス隊が北西稜ルートで登頂。

市川山岳会登山隊2名が遭難。山頂直下で無線機が故障したためサポート隊員が下山中のアタック隊員を遭難死と誤認。前進キャンプをすべて撤収してしまったため、体力が回復できないまま菅原真隊員が行方不明となり、松田宏也隊員は遭難から19日後に薬草採集のためベースキャンプ近くを訪れたイ族の住民に救出され生還した。5ヵ月後、遺体捜索に向かった市川山岳会のメンバー1名が高山病で死亡。

10月 アメリカ隊が北西稜ルートで登頂

1984年10月 - ドイツ隊が北西稜ルートで登頂。

1994年 - 日本ヒマラヤ協会隊の4名が行方不明。

1997年5月2日、コンカ山登山隊(芳賀正志隊長)の横山英雄、長原孝友が北西稜ルートで登頂(日本人初登頂)。

1998年11月 - 韓国隊が北東稜ルートで初登頂。下山中に一人が墜落死。

2006年 - 韓国隊が1981年に遭難死した北海道山岳連盟登山隊の遺体を発見、翌年回収された。

2009年 - アメリカ隊の3名が燕子溝氷河を挟んだ向かいにある愛徳加(エドガー)峰に向かう途中で遭難。

## 3) 海螺溝氷河 【編集】

ミニヤコンカから生じる海螺溝氷河の末端は、高低差、幅とも1,000メートルを超える巨大な氷瀑となっており、ロープウェイによりアクセスする展望台が整備されるなど観光地化が進んでいる。

#### 4) その他 [編集]

1981年に遭難した北海道隊隊員のうち2名の遺品に、ベースキャンプ付近で採取したとする種不明の大型の蝶標本14頭が含まれていた。標本は国立科学博物館に送られ、ウンナンシボリアゲハ (*Bhutanitis mansfieldi*) と鑑定された。この蝶は1918年に雲南省付近でイギリス人の植物学者により発見されたとされる標本以降、60年以上他に標本が存在しなかった。この報告は当時の世界の昆虫学会に大きな驚きをもたらした。

.....

ウンナンシボリアゲハも逸話のある蝶だ。( <https://ameblo.jp/iga72/entry-12086533753.html> より転載。)



1918年にイギリスの植物学者ジョージ・フォレストが中国の雲南省で1頭を発見してから、その後全く採れなかった謎の蝶だった。

その蝶が63年振りに四川省で再発見されたのだが、そこには悲劇的な背景があった。

1981年に北海道山岳連盟によるミニヤコンカ(注2)登山遠征隊の2人が、ベースキャンプで14頭の見慣れない蝶を採集した。

だが、その後の山頂アタックで8名の遭難者を出した。これは日本登山史上でも類を見ない惨事で、当時大きくニュースにも取り上げられた。その遺品の一部から見つかったのがウンナンシボリアゲハなのである。これも当時の蝶学界に大きな衝撃をもたらしたようだ。

シナシボリアゲハ *Bhutanitis mansfieldi*

#### 2. 書評の例

- 1) <http://inmybook.jugem.jp/?eid=437>
- 2) <https://bookmeter.com/books/32147>